



おのあきのり
小野晃典研究会

(マーケティング論〈広告論・消費者行動論〉)

小野 晃典 准教授

I 研究領域

私の研究教育領域はマーケティング論です。マーケティング論のフレームワークを用いて、「なぜ消費者はこのブランドを選択したのか」、「なぜこの広告は売上に貢献しているのか」、「なぜこの店はここに立地しているのか」といった具体的な課題を設定し、その課題を解決するツールとなりうるモデルの構築と実証を目指します。マーケティング論は広範な学問領域ですが、私の中心的な研究教育領域は広告論と消費者行動論です。製品情報に関わるコミュニケーションを、主に消費者心理を読み解くことによって分析するスタンスです。

II 研究会の特徴

在外研究期間を経て2007年に再開したばかりなので特徴という特徴はありませんが、学究意欲の高い現役生は、質の高いゼミをわずか1年間で築き上げつつあります。

III 学生への要望

企業活動や消費者心理にかかわる諸現象を読み解くことへの関心、そして、マーケティング研究が大好きな私とその気持ちを共有して取り組む情熱を切望します。また、今後30年近く続く後輩の模範となるゼミ生でなくてはなりません。私はどの先生にも負けないくらいにゼミ活動を最優先にするつもりですので、皆さんも在籍中の2年間で、ゼミ活動を最優先してください。

IV 選考方法

書類審査・面接・その他の企画によって多角的に人物像を評価し、ゼミ生と共に選考します。詳細は未定ですので、今後逐次更新されるゼミのウェブサイトを確認してください。

V 経歴

- 1995年 慶應義塾大学商学部卒業；2000年 大学院商学研究科修了（商学博士）
- 1997年 慶應義塾大学商学部助手；2000年 専任講師；2003年 助教授〔～2007年〕
- 2005年 カリフォルニア大学バークレー校ハース経営大学院客員研究員〔～2006年〕
カリフォルニア州立サンノゼ大学シリコンバレー経営大学院客員研究員〔～2006年〕
- 2006年 北京大学 光華管理学院（経営大学院）客員研究員〔～2007年〕
- 2007年 慶應義塾大学商学部准教授・学習指導副主任〔現職〕

VI 参考文献

- 指導教授の研究・教育実績について：<http://www.fbc.keio.ac.jp/~akinori/>
- ゼミの研究活動・成果・入ゼミ情報について：<http://news.fbc.keio.ac.jp/~onosemi/>



I ゼミの特徴 (ゼミ員より)

小野ゼミの第 1 の特徴は何といっても研究成果にあります。小野ゼミでは通常の三田祭研究発表のほか、商学部四分野インゼミ研究発表会、関東十ゼミ討論会、学生広告論文電通賞論文、SPSS 研究奨励賞論文、三田商学研究論文、三田祭および早稲田祭でのインカレ討論会といった様々な企画に自主参加・招待参加してきました。卒論もウェブサイトに全文を掲載するほどの自信作揃いです。こうした豊富で高度な研究成果を支えるのは、ゼミ生の意欲と団結心と実行力です。意欲があるから企画案が増え、同期が団結するから企画参加が実現になり、実行力があるから企画を貫徹できるのです。それが第 2 の特徴です。そして、最後の特徴は先生です。どんな研究企画案でもゼミ生の意欲を汲み取ってそれを受け入れてくださり、締め切り間際に徹夜して論文を執筆するゼミ生たちに混じって徹夜を重ね、原稿が真っ赤になるほど校正してくださる、そんな若くてタフな先生が小野ゼミの指導教授です。

II ゼミ員構成

3 年生 21 名【5 期生】(うち女子 6 名・他学部生 1 名)

※ 再開直後のゼミなので、現在は 4 年生がいません。

III 活動内容

【3 年次】春学期は、基礎知識修得のため、英書講読、ケースメソッド、ディベート(以上、木曜の本ゼミ企画)、基礎文献レポート、多変量解析実習(以上、月曜のサブゼミ企画)等に取り組みます。秋学期は、習得した知識を活かし、共同研究プロジェクトに参画します。

【4 年次】3 年生の指導にあたりつつ、自らの卒論を執筆します。希望者は適宜、懸賞論文に個人応募することもできます。これまでの活動内容の詳細についてはゼミ HP をご覧ください。

IV 三田祭

マーケティング・ゼミ研究発表会、商学部四分野インゼミ研究発表会、関東十ゼミ討論会で発表される 3 つの共同研究プロジェクトの概要を説明するというのが、小野ゼミでの三田祭の位置付けです。研究内容は電論や卒論とともに、HP に掲載されています。

V 連絡先

質問・要望・先行 PR はお気軽に <onosemi6@gmail.com> までお寄せください。

ゼミ代表：森本孝平
入ゼミ代表：松山昌司
入ゼミ企画：加藤絵美